



伊南川の自然を守れ！ 外来植物ハリエンジュの繁茂を防ぐ 河川管理のあり方



伊南川の水辺林に入り込んだハリエンジュ
(中央の白い花を咲かせている木)



伊南川では5月下旬から
6月上旬に花を咲かせる

伊南川には、貴重な木「ユビソヤナギ」が、日本一の数で育っています。しかし近年、北米原産の外来植物「ハリエンジュ(ニセアカシア)」が川岸に広がり、ヤナギの森を脅かしています。

新潟大学と只見町ブナセンターはこの問題に注目し、ハリエンジュがどこで増えやすいのかを伊南川全体で調査しました。上流(檜枝岐村)から下流(只見町)にかけて川の形や洪水後の地形を記録し、ハリエンジュの分布と照らし合わせた結果、興味深いことがわかりました。

ハリエンジュは川幅がせまく、洪水のあとに砂や石がたまりやすい上流から中流(檜枝岐村や南会津町)に多く、川幅の広い下流(只見町)では少ない傾向にありました。下流では洪水のたびに水に長くつかるため、過湿な環境に弱いハリエンジュは育ちにくいと推察されました。

この発見は、自然な洪水がハリエンジュの広がりを抑える力がある可能性を示しています。河川管理や自然保護の計画を立てるうえで、川幅を広く保ち、水が河川敷で自然にあふれる環境を維持することが大切と考えられます。

なお、この研究の詳細は、以下の論文に掲載されています。

上村ころこ・中野陽介・崎尾均(2025)福島県伊南川本流におけるハリエンジュの分布と河川環境. 植生学会誌42(2): 91-98.



只見町ブナセンターからのお知らせ

企画展「アリからクマまで－タネをまく動物」

期間：4月4日(土)～11月30日(月) 場所：ただみ・ブナと川のミュージアム

内容：自ら動くことができない植物は、動物の力を借りてタネを遠くに移動させ、子孫を残してきました。本企画展では、その仕組みなどについて、全国の研究者が解説します。また、大人から子供まで楽しく理解できるよう工夫をしましたので、ぜひ見学にお越しください。

※この広報紙は再生紙を使用しています

※環境にやさしい大豆油インキを使用しています